

医薬理工学環 博士後期課程 創薬・製剤工学プログラムの三つのポリシー 【博士(薬科学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的

医薬理工学環 博士後期課程 創薬・製剤工学プログラムは創薬・製剤の高度の知識と技能を生かし、製薬企業の創薬部門における医薬品設計や製剤開発研究部門における製剤設計を自立して担当できる研究者、専門的技術者を養成することを目的とする。

プログラムの養成する人材像

理学・工学との融合的教育を行うことにより、富山大学の特色である創薬の教育と研究を基盤とし、新しい医薬品の創生、製剤開発により貢献し、健康・医療を担う人材

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		アドミッション・ポリシー	
<p>【修了認定・学位授与の方針】 創薬・製剤工学プログラムでは、幅広い学識基盤と高度の専門性、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、総合的な判断力、豊かな創造力を兼ね備え、医薬品開発・医薬品工学など創薬・製剤関連領域の幅広い分野で先導的に活躍して学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる高度専門職業人や教育研究者を育成することを目的としている。 この目的に基づいて、原則3年以上在学して必要な研究指導を受け、「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付け、定められた教育課程で十分な学修成果を上げた者に博士(薬科学)の学位を授与する。</p>		<p>【教育課程編成方針】 創薬・製剤工学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。 薬学、医学、理工学との協同体制を基盤とし、創薬・製剤工学を総合した特色ある教育課程を編成する。 【教育課程実施方針】 3年間の講義・演習・実験実習によるカリキュラムを実施する。講義は、大学院共通科目、学環共通科目を履修するほか、各分野が実施するものを、学生が主体的に選択できるものとする。 演習と特別研究は、研究室等で実施する。</p>		<p>【入学者受入れの方針】 創薬・製剤工学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示す人材育成の目的に基づき、総合的な判断力を持った創造性豊かな研究者・教育者・技術者を志し、創薬・製剤の最先端を学びたいという意欲を持つ者を受け入れる。 【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 大学院博士前期(修士)課程修了見込みの者だけでなく、社会人等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、大学院博士前期(修士)課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>	
【学修成果の到達指標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】		【求める資質・能力】	
基盤的能力	<p>【学修成果】 研究遂行に必要な最先端の創薬・製剤工学に関する幅広い学識と総合的な判断力を身に付けている。 【到達指標】 選択科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 創薬・製剤工学関連領域の最先端の知識と技術の修得のために、特論、実習、インターンシップ等を実施する。 【学修方法】 講義及び実習形式により学修する。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 博士前期(修士)課程修了レベルの薬学あるいは理工学の基礎知識及び語学力を身に付けている。 創薬・製剤工学関連領域の幅広い知識を修得したいという意欲を持っている。</p>		
専門的学識	<p>【学修成果】 創薬・製剤工学関連領域で自立して研究活動を行う教育研究者、高度な業務に従事する専門職業人として必要な専門知識、技術を身に付けている。 【到達指標】 「創薬・製剤工学特別演習」及び「創薬・製剤工学特別研究」の単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 創薬・製剤工学関連領域で自立して研究活動を行う教育研究者、高度な業務に従事する専門職業人として必要な専門知識、技術を修得するために、プログラム専門科目の講義及び実習・演習・特別研究を実施する。 【学修方法】 講義は、対面又は多様なメディアを高度に利用することにより学修する。演習では、各分野における背景、課題及び最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。 「創薬・製剤工学特別研究」では、各分野における背景に基づいて課題を設定し、その研究課題に取り組みながら、先端的分野の専門知識や技術について実践的に指導を受ける。 【学修成果の評価方法】 講義では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。 演習・特別研究では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 高度な専門知識、技術の修得のために必要な基盤的専門知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>		
倫理観	<p>【学修成果】 研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。 【到達指標】 「創薬・製剤工学特別研究」の単位を修得していること。 剽窃検査ソフトによる学位論文のチェックで問題がないこと。 本学大学院において大学院共通科目「研究倫理」の単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。 【学修方法】 特別研究を中心に主指導教員、副指導教員等から研究倫理の規範意識や人間尊重について指導を受ける。 研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。 博士前期課程で大学院共通科目「研究倫理」を履修していない場合は、講義及びe-ラーニング形式により必ず学修する。 【学修成果の評価方法】 研究倫理教育を受講した上で、法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 医薬品に関わるものとして適切な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>		
創造力	<p>【学修成果】 創薬・製剤工学関連領域における背景を理解した上で解決すべき課題を設定し、専門知識、技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、課題を解決する能力、並びに研究成果の学術的、社会的意義を説明、議論し、国際社会に発信できる能力を身に付けている。 【到達指標】 「先端研究企画演習」と「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 博士の学位論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p>【学修内容】 創薬・製剤工学関連領域における背景を理解した上で解決すべき課題を設定する能力を養成するために、「先端研究企画演習」を実施する。また、創造性の高い研究により創薬・製剤工学関連領域の課題を解決する素養と、研究成果やその価値を説明、議論できる能力を養成するために、「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」を実施する。さらに「創薬・製剤工学特別研究」を実施し、その成果をまとめて博士の学位論文を作成するとともに、博士論文発表会にて発表を行う。 【学修方法】 研究企画書、論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、研究発表を行うとともに、博士学位論文を完成させる。 【学修成果の評価方法】 「先端研究企画演習」では研究企画書を推敲し、その成果を総合的に評価する。「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。また博士論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づく博士学位論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 創薬・製剤工学関連領域の最先端研究に取り組み、研究成果を国際社会に発信し、社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>		

医薬理工学環 博士後期課程 応用和漢医薬学プログラムの三つのポリシー 【博士(薬科学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

医薬理工学環 博士後期課程 応用和漢医薬学プログラムは和漢医学学を応用できる専門的で幅広い知識と技術を授け、医薬品開発とレギュレーション、未病研究に基づいた健康・医療の創生などを行える薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、および審査官(行政官)など、和漢医学を含めた伝統医薬からの創薬と人々の健康維持、並びに学術研究の進歩に貢献できる高度な人材を育成することを目的とする。

プログラムの養成する人材像

和漢医学学、天然物化学、生命科学、創薬化学、生物工学等の幅広い学問領域を統合的に学ぶことで、幅広い視野と専門性を具備した、大学・研究機関の研究者、企業の研究者、行政機関における薬事審査官等として、健康・医療を担うことのできる人材

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p><b>【修了認定・学位授与の方針】</b>                      応用和漢医学学プログラムでは、和漢医学学を応用できる専門的で幅広い知識と技術を授け、医薬品開発とレギュレーション、未病研究に基づいた健康・医療の創生などを行える薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、および審査官(行政官)など、和漢医学を含めた伝統医薬からの創薬と人々の健康維持、並びに学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的とする。                      この目的に基づいて、本プログラムでは、原則3年以上在学し、所定の課程を修め必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び試験に合格し、「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付けた者に博士(薬科学)の学位を授与する。</p>	<p><b>【教育課程編成の方針】</b>                      応用和漢医学学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。                      薬学、医学、理工学との協働体制を基盤とし、和漢医学学と理工学の融合教育によって特色ある教育課程を編成する。</p> <p><b>【教育課程実施の方針】</b>                      3年間の講義・演習・実験実習によるカリキュラムを実施する。講義は、大学院共通科目、学環共通科目を履修するほか、各専門分野が実施するものを学生が主体的に選択できるものとする。                      演習と特別研究は、研究室等で実施する。</p>	<p><b>【入学者受入れの方針】</b>                      応用和漢医学学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示す人材育成の目的に基づき、総合的な判断力を持った創造性豊かな研究者、教育者及び技術者を志し、応用和漢医学学の基礎と実践を学びたいという意欲を持つ者を受け入れる。</p> <p><b>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</b>                      大学院博士前期(修士)課程修了見込みの者だけでなく、社会人等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p>入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の内容により、大学院博士前期(修士)課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
<p><b>【学修成果の到達指標】</b></p>	<p><b>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</b></p>	<p><b>【求める資質・能力】</b></p>
<p><b>基盤的能力</b></p> <p><b>【学修成果】</b>                      研究遂行に必要な応用和漢医学学関連領域の幅広い豊かな学識と総合的な判断力を身に付けている。</p> <p><b>【到達指標】</b>                      講義科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p><b>【学修内容】</b>                      応用和漢医学学関連領域の最先端の知識と技術の修得のために、理論、実習、演習等を実施する。</p> <p><b>【学修方法】</b>                      講義及び実習形式により学修する。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b>                      試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p><b>【求める資質・能力】</b>                      大学院博士前期(修士)課程修了レベルの薬学あるいは理工学の基礎知識及び語学力を身に付けている。                      応用和漢医学学関連領域の幅広い知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p><b>専門的学識</b></p> <p><b>【学修成果】</b>                      応用和漢医学学関連領域の発展に寄与する自立した研究遂行を行う教育研究者、高度に専門的な業務に従事する高度専門職業人として必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、技術、態度を身に付けている。</p> <p><b>【到達指標】</b>                      演習及び応用和漢医学学特別研究の修了要件単位を修得していること。</p>	<p><b>【学修内容】</b>                      応用和漢医学学関連領域の教育研究者又は高度専門職業人として必要な高度の専門知識、技術を修得するために、プログラム科目の講義及び実習・演習・特別研究を実施する。</p> <p><b>【学修方法】</b>                      講義科目では対面又は多様なメディアを高度に利用して学修する。演習科目では、各専門分野における最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。演習では、各分野における背景、課題及び最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。                      応用和漢医学学特別研究では、各分野における背景に基づいて課題を設定し、その研究課題に取り組みながら、先端的な専門知識や技術について実践的に指導を受ける。                      融合型・分野横断的教育を目的として、分野を横断した他の研究室での実験や演習、及び他分野の教員を副指導教員とするシステムを導入する。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b>                      講義では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。                      演習・特別研究では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p><b>【求める資質・能力】</b>                      高度な専門知識、技術の修得のために必要な基盤的専門知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p><b>倫理観</b></p> <p><b>【学修成果】</b>                      教育研究者又は高度専門職業人として活動する上で必要な研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。</p> <p><b>【到達指標】</b>                      「応用和漢医学学特別研究」の単位を修得していること。                      研究倫理に関する規範意識を身に付けていること。</p>	<p><b>【学修内容】</b>                      高度専門職業人又は教育研究者として活動する上で必要な研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。</p> <p><b>【学修方法】</b>                      特別研究を中心に主指導教員、副指導教員等から研究倫理の規範意識や人間尊重について指導を受ける。                      また博士前期課程で大学院共通科目「研究倫理」を履修していない場合は、講義及びe-Learning形式により必ず学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b>                      研究倫理教育を受講した上で、法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p><b>【求める資質・能力】</b>                      大学院博士前期(修士)課程で求められる倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p><b>創造力</b></p> <p><b>【学修成果】</b>                      幅広い専門知識、高度な技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、課題を解決する能力、研究成果の意義を説明、議論し国際社会に発信できる能力、及び豊かな学識を身に付けている。</p> <p><b>【到達指標】</b>                      博士の学位論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p><b>【学修内容】</b>                      応用和漢医学学関連領域における背景を理解した上で解決すべき課題を設定する能力を養成するために、「先端研究企画演習」を実施する。また、創造性の高い研究により応用和漢医学学関連領域の課題を解決する素養と、研究成果やその価値を説明、議論できる能力を養成するために、「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」を実施する。さらに「応用和漢医学学特別研究」を実施し、その成果をまとめて博士の学位論文を作成するとともに、博士論文発表会にて発表を行う。</p> <p><b>【学修方法】</b>                      研究企画書、論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を指導教員から指導、添削を受け、研究発表を行うとともに、博士学位論文を完成させる。</p> <p><b>【学修成果の評価方法】</b>                      「先端研究企画演習」では研究企画書を推敲し、その成果を総合的に評価する。「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。また博士論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づき博士学位論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p><b>【求める資質・能力】</b>                      応用和漢医学学関連領域の重要な研究課題に創造性豊かに取り組み、研究を通じて社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>

医薬理工学環 博士後期課程 認知・情動脳科学プログラムの三つのポリシー 【 博士(神経科学) 】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的

医薬理工学環 博士後期課程 認知・情動脳科学プログラムは脳神経科学研究分野の幅広い知識、技術、研究手法を教授し、脳神経科学の基礎研究や脳神経疾患に対する治療法等の開発などを主体的に行える研究者・教育者・技術者など高度な人材の育成を目的とする。

プログラムの養成する人材像

医学、工学、薬学、理学を中心とした脳神経科学分野の教員と関係組織の連携・協力により幅広い学問領域の先端的融合を推進し、脳神経科学分野の基礎臨床研究のみならず精神疾患や認知症の新たな診断や治療法の開発を行うことができる学際的研究人材や医薬品開発人材

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 認知・情動脳科学プログラムでは、幅広い学識基盤と高度の専門性、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、総合的な判断力、豊かな創造力を兼ね備え、認知・情動脳科学をはじめとする神経科学や基礎医学の幅広い分野で先導的に活躍して学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる研究者・教育者を育成することを目的としている。 この目的に基づいて、原則3年以上在学中に必要な研究指導を受け、「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付け、定められた教育課程で十分な学修成果を上げた者に博士(神経科学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 認知・情動脳科学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。 医学、薬学、理工学、人文科学との協働体制を基盤とし、認知・情動脳科学を総合した特色ある教育課程を編成する。  【教育課程実施方針】 3年間の講義・演習・実験実習によるカリキュラムを実施する。講義は、大学院共通科目、学環共通科目を履修する他、各分野が実施するものを学生が主体的に選択できるものとする。 演習と特別研究は、研究室等で実施する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 認知・情動脳科学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示す人材育成の目的に基づき、総合的な判断力を持った創造性豊かな研究者・教育者及び技術者を志し、認知・情動脳科学の最先端を学びたいという意欲を持つ者を受け入れる。  【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 大学院博士前期(修士)課程修了見込みの者だけでなく、社会人等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。  入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験(原則として外部試験の成績提出)、口述試験及び成績証明書の成績により、大学院博士前期(修士)課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p><b>基盤的能力</b></p> <p>【学修成果】 研究遂行に必要な最先端の認知・情動脳科学に関する豊かな学識と総合的な判断力を身に付けている。  【到達指標】 講義科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 認知・情動脳科学関連領域の最先端の知識と技術の修得のために、特論、実習等を実施する。  【学修方法】 講義及び実習形式により学修する。  【学修成果の評価方法】 各授業科目にて実施する試験、レポート、プレゼンテーション等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 認知・情動脳科学を中心とした神経科学分野の高度な研究を遂行するにあたり、それを支える生命科学、工学、人文科学などの大学院博士前期(修士)課程修了程度の能力を持っている。 脳神経科学、認知科学、生命科学分野での専門的及び学際的な物事に深い興味を持ち、高度かつ最先端の研究を遂行する意欲がある。</p>
<p><b>専門的学識</b></p> <p>【学修成果】 認知・情動脳科学関連領域で自立して研究活動を行う教育研究者、高度な業務に従事する専門職業人として必要な専門知識、技術を身に付けている。  【到達指標】 「認知・情動脳科学特別演習」及び「認知・情動脳科学特別研究」の単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 認知・情動脳科学関連領域の教育研究者、高度な業務に従事する専門職業人として必要な高度の専門知識、技術を修得するために、演習及び「認知・情動脳科学特別研究」を実施する。  【学修方法】 専門講義科目では対面又は多様なメディアを高度に利用して学修する。演習科目では、各専門分野における最新の知見について紹介するとともに、それに基づき討議を行う。 「認知・情動脳科学特別研究」では、各分野における背景に基づいて設定された研究課題に取り組みながら、専門知識や技術について実践的に指導を受ける。 融合型・分野横断的教育を目的として、分野を横断した他の研究室での実験・実習指導や他分野の教員を副指導教員とするシステムを導入する。  【学修成果の評価方法】 プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 大学院博士前期(修士)課程修了レベルの基礎知識及び語学力を身に付けている。 自らの専門領域において、解決すべき課題を設定できる。 自らの専門性のみならず、その周辺領域にも強く関心を持っている。</p>
<p><b>倫理観</b></p> <p>【学修成果】 教育研究者として活動する上で必要な研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。  【到達指標】 「認知・情動脳科学特別研究」の単位を修得していること。 研究倫理に関する規範意識を身に付けていること。</p>	<p>【学修内容】 高度専門職業人又は教育研究者として活動する上で必要な研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。  【学修方法】 特別研究を中心に主指導教員、副指導教員等から研究倫理の規範意識や人間尊重について指導を受ける。 また博士前期課程で大学院共通科目「研究倫理」を履修していない場合は、講義及びe-Learning形式により必ず学修する。  【学修成果の評価方法】 法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 一般的な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p><b>創造力</b></p> <p>【学修成果】 豊かな専門知識、高度の技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、認知・情動脳科学関連領域の諸課題を解決するための豊かな学識、及び研究成果やその価値を説明、議論できる高度の能力を身に付けている。  【到達指標】 特別研究の単位を修得し、博士の学位論文審査及び最終試験を受け、合格の判定を受けていること。</p>	<p>【学修内容】 創造性の高い研究を遂行するための豊かな学識及び研究価値を説明、議論できる高度の能力の修得のために、「認知・情動脳科学特別研究」を実施し、専門領域及び周辺領域の知識と自身の研究課題を元に独創的な研究を進め、博士の学位論文を作成とともに、博士論文発表会にて発表を行う。  【学修方法】 論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、博士論文を完成させる。  【学修成果の評価方法】 博士論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づく博士論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 自らの専門領域およびその周辺領域において、課題の設定や解決に向けて創造性豊かに取り組み、研究を通じて社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>

医薬理工学環 博士後期課程 メディカルデザインプログラムの三つのポリシー 【博士(工医学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的

医薬理工学環 博士後期課程 メディカルデザインプログラムは学生に基礎から臨床・社会実装に至る幅広い観点から医学・福祉・看護学・理工学等の基礎的な考え方と知識、疾病の予防・病態解明・診断・治療・社会復帰に関する工医学の知識と研究手法を修得させ、実践的な研究活動と成果発表を体験学修させる。  
これらの教育を通じて企業等において先端的な医療・福祉機器・サービスの研究開発を担い、あるいは大学や研究機関において未来の医療・福祉・研究分野を創造し、デザインする研究者や開発者として活躍する高度専門職業人を育成することを目的とする。

プログラムの養成する人材像

医療・福祉に関わる広い医学分野(メディカル)と工学を中心とした学問分野の先端的融合を推進し、医療・福祉機器・サービスの研究開発を担うことができる人材、および未来の医療・福祉・研究分野を創造するとともに当該分野の従事者及び後進を指導できる人材

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 メディカルデザインプログラムでは、学生に基礎から臨床・社会実装に至る幅広い観点から医学・福祉・理工学等の基礎的な考え方と知識、疾病の予防・病態解明・診断・治療・社会復帰に関する工医学の知識と研究手法を修得させ、実践的な研究活動と成果発表を体験学修させる教育を通じて企業等において先端的な医療・福祉機器・サービスの研究開発を担い、あるいは大学や研究機関において未来の医療・福祉・研究分野を創造し、デザインする研究者や開発者として活躍する高度専門職業人を育成することを目的としている。 この目的に基づいて、原則3年以上在学して必要な研究指導を受け、「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付け、定められた教育課程で十分な学修成果を上げた者に、博士(工医学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 工医学・福祉工学分野の高度専門職業人となるべく、医学・薬学・医療・福祉・理工学に関する幅広い知識を体系的に身に付けさせる教育課程を編成する。医学・薬学・医療・福祉の基礎、工医学・福祉工学の高度な専門的知識、社会保障制度および医療経済学の基礎を修得させる科目を開講する。また、学生が所属する研究室における個人指導により医療・福祉機器・サービスの開発能力を修得させる。さらに、新規性と学術的重要性を含む学位論文の作成と発表を指導する。 【教育課程実施方針】 学生は所属研究室を中心に能動的な学修を行う。 1年次には、大学院共通科目、学環共通科目の履修を通じて研究開発者としての倫理観、医学・薬学の基礎を修得させ、プログラムの必修科目の履修を通じて各学生の研究テーマに直接つながる医療・福祉・理工学の高度な専門的知識を修得させ、プログラムの選択科目の履修を通じて関連する分野の専門的知識を修得させ、経済学部教員や附属病院職員による授業を通じて研究成果の社会実装に必要な社会保障制度と医療経済学の基礎を修得させる。なお、理工系の博士前期(修士)課程出身者については、医療・福祉の基礎を修得させるために、医薬系教員が開講する各診療科の疾病・治療に関する特論科目を履修させる。 2年次、3年次には学位論文の作成と発表を指導する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 ・工医学・福祉工学に興味を持ち、医学・薬学・医療・福祉及び理工学の基礎知識、先端知識を修得する意欲のある人材を求める。 ・工医学を修学した高度な専門職業人・研究者として、医療・福祉・健康分野、その他様々な分野で社会に貢献する意欲のある人材を求める。 ・医療・福祉・健康分野において高度かつ先端的な研究・開発を遂行するために必要な基礎的能力を持っている人材を求める。 【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 大学院博士前期(修士)課程修了見込みの者だけでなく、社会人等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。 入学者の選抜は、外国語(英語)試験(原則として外部試験の成績提出)、口述試験及び成績証明書(成績)により、大学院博士前期(修士)課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>【学修成果】 研究分野における基本的な情報収集、論理的思考、情報発信ができる。英語論文の基本的な読解と解説ができる。研究内容について他者と基本的な議論ができる。 【到達指標】 幅広い専門領域の中から選択科目を履修すること。研究室や履修科目において、研究分野の知識や論文内容について議論できる能力を身に付けていること。専門分野の学会等において、情報収集、議論、情報発信ができる能力を身に付けていること。 メディカルデザインプログラムで定める修了要件に必要な授業科目の単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 専門分野における知識の修得、英語論文の読解を行う。 【学修方法】 能動的な学修による情報の収集、関連論文の収集と読解を行う。 【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。 カリキュラムにおける必修科目の修得について、成績評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 研究分野に対する知的興味を持ち、能動的に学修を行い、初歩的な英語論文読解力を有し、他者と論理的に議論することに関心を有している。</p>
<p>【学修成果】 専門分野の知識や論文内容について議論できる基本的な能力を身に付けている。専門分野の学会等において、情報収集、議論、情報発信ができる基本的な能力を身に付けている。 【到達指標】 専門分野における研究課題の解決方法が実践できること。研究成果を専門分野の学会で発表できること。</p>	<p>【学修内容】 専門分野における課題解決のための知識の収集、調査や実験の実施を行う。 【学修方法】 プログラム専門分野科目の履修、研究室での論文講読や研究結果の発表、専門学会での研究成果の発表と議論を学修する。 【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。 カリキュラムにおける選択科目等の専門分野科目の修得について、成績評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 能動的に学修を行い、関連分野の専門知識に関心を有している。</p>
<p>【学修成果】 研究不正について説明でき、研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付けている。 【到達指標】 「メディカルデザイン特別研究」の単位を修得していること。 研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講していること。</p>	<p>【学修内容】 研究不正の事例や研究不正防止方法について学ぶ。 【学修方法】 特別研究を中心に指導教員から研究倫理の規範意識や人間尊重について指導を受ける。 研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講する。 【学修成果の評価方法】 研究倫理教育を受講した上で、法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 一般的な倫理観、道徳論を身に付けている。</p>
<p>【学修成果】 自身の研究成果をもとに、次の研究課題の設定と解決方法の考察ができる。 【到達指標】 学位論文を執筆できる能力を身に付けている。学会等で、議論できること。 博士學位論文審査及び最終試験を受け、合格の判定を受けていること。</p>	<p>【学修内容】 学位論文の作成方法、学会等での発表準備方法を学修する。 【学修方法】 能動的な学修による学位論文作成、学会発表の準備を行う。 【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 幅広い知的興味をもち、創造性に対して関心を持っている。</p>